



平成19年10月30日

各位

会社名 ニチアス株式会社
代表者 取締役社長 川島 吉一
コード番号 5393 (東証 市場第一部)
本社所在地 東京都港区芝大門一丁目1番26号
問合せ先 取締役管理本部長 高木 慶一
TEL (広報チーム) 03-3433-7244
(URL <http://www.nichias.co.jp>)

弊社住宅用軒裏天井および耐火間仕切壁の一部認定の不正な取得について

今般、社内調査の過程で弊社が製造および販売をしております防火用軒裏天井*1および耐火間仕切壁*2の一部の製品について、準耐火・耐火認定番号の一部を不正な方法により取得していたことが判明いたしました。お客様ならびに関連する皆様には多大なるご迷惑とご心配をおかけすることとなり、深くお詫び申し上げます。今回の問題の経緯、概要および今後の対応等については以下のとおりです。

(*印の用語についてはP6「用語の解説」をご参照ください。)

記

1. 問題の経緯

年度	月	内容
平成12年	6月	建築基準法改正
平成13年	2月～3月 10月～	耐火間仕切壁 当該認定取得。 防火用軒裏天井 当該認定取得開始。(平成17年8月まで)
平成18年	9月 10月	独禁法違反の容疑で公正取引委員会の立ち入り調査を受け、社内調査開始 防火用軒裏天井、耐火間仕切壁の一部認定につき、不正取得の事実把握。 上記製品の改良品の開発を指示。
平成19年	18年11月 ～8月 10月	改良品の開発、各種対策仕様の立案・確認を実施。 17日 国土交通省に報告 18～23日 納入先各社に報告、認定使用状況の調査依頼 30日 当該製品出荷停止

2. 認定取得時の不正内容

別表1をご参照ください。

3. 対象製品および問題点

別表2をご参照ください。

4. 施工済物件への対処

改修策は立案済みですが、物件により対応策が異なるため具体的改修等については当該製品の納入先各社様と相談の上、迅速に対応いたします。

5. 再発防止策

当該担当部門内のみで行っていた認定取得業務を新製品開発のプロセスと同様に独立した組織である品質保証部門のチェックを受ける体制に変更いたします。

6. 損益に与える影響

当期および将来の業績に与える影響につきましては、現在調査中です。
今後納入先各社と補修方法等協議のうえ金額を算定し、公表する予定です。

7. 相談窓口

本件に係わる相談窓口として以下のとおりフリーダイヤルを開設しました。

開設場所 : 〒105-8555 東京都港区芝大門1-1-26 ニチアス株式会社本社内

電話でのご相談 : 0120-515-061 (フリーダイヤル)

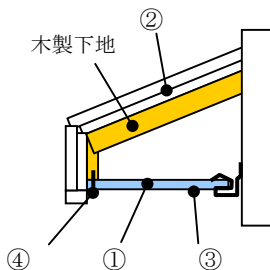
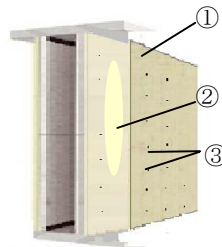
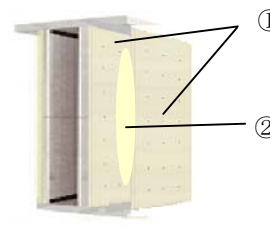
受付時間 : 午前9時～11時30分、午後1時～5時30分

なお、ホームページでも受付けております。

以上

(別表1) 認定取得時の不正内容

*印の用語についてはP5「用語の解説」をご参照ください。

一般名称、製品名	試験体構造	No	名称	認定試験要求及び申請項目	実試験内容	
住宅用軒裏天井材 製品名：防火のき天 (準耐火 30分 11mm 45分 11mm 60分 16mm)	 <p>木製下地 ②</p> <p>④ ① ③</p>	①	軒天板基板 (当社製品)	材質 繊維混入(セメント) けい酸カルシウム板*3 (不燃認定品)	繊維混入 けい酸カルシウム板 (不燃認定未取得)	
		②	試験体屋根部耐火被覆*4	材質 含水率	繊維混入 けい酸カルシウム板 5%未満	繊維混入 けい酸カルシウム板 10~30%
		③	軒天板塗装	種類・塗布量	アクリルウレタン 400g/m ²	水系リソルハース 100g/m ²
		④	タッピングねじ	寸法	φ3×25mm	φ4×65mm
乾式耐火間仕切壁*2 製品名：ファイアタイト 60S (繊維混入けい酸カルシウム板 6mm +石膏ボード 12.5mm)	 <p>①</p> <p>②</p> <p>③</p>	①	面材 (当社製品)	材質 含水率 繊維混入 けい酸カルシウム板 (不燃認定品) 5%未満	繊維混入 けい酸カルシウム板 (不燃認定未取得) 7%	
		②	面材	材質	石膏ボード	同左
		③	接着材	種類	アクリル樹脂系接着材等	けい酸質接着材
乾式耐火間仕切壁 製品名：ニチアス耐火ウォール 60S (繊維混入けい酸カルシウム板 6mm + 繊維混入 けい酸カルシウム板 8mm)	 <p>①</p> <p>②</p>	①	面材 (当社製品)	材質 含水率 繊維混入 けい酸カルシウム板 (不燃認定品) 5%未満	繊維混入 けい酸カルシウム板 (不燃認定未取得) 15%	
		②	接着材	種類	アクリル樹脂系接着材等	けい酸質接着材

(別表2) 対象製品および問題点

一般名	製品名	出荷時期	出荷実績	認定品の問題点	不正取得 全認定番号	認定取得日
住宅用 軒裏天井材 (準耐火認定品) (準耐火 45分 60分)	防火 のき天	平成 14年 4月 ～ 平成 19年 10月	約40,000棟 調査した結果 上記に使用され ている認定番号 は、以下5点で す。 QF045RS-0036 QF060RS-0015 QF060RS-0026 QF060RS-0038 QF060RS-0057	(準耐火45分) 認定試験に必要 な時間が30分程 度にとどまっ ております。 (準耐火60分) 認定試験に必要 な時間が45分 程度にとどま っております。	QF045RS-0012 QF045RS-0036 QF045RS-0041 QF045RS-0046 QF045RS-0065 QF060RS-0015 QF060RS-0026 QF060RS-0038 QF060RS-0040 QF060RS-0057	平成13年11月9日 平成15年2月28日 平成15年3月27日 平成15年9月3日 平成17年8月8日 平成14年4月15日 平成14年8月22日 平成15年2月28日 平成15年3月27日 平成16年6月23日
住宅用 軒裏天井材 (準耐火認定品) (準耐火30分)	防火 のき天	平成 13年 10月 ～ 平成 19年 10月	約60,000棟 調査した結果 上記に使用され ている認定番号 は、以下4点で す。 QF030RS-0010 QF030RS-0025 QF030RS-0037 QF030RS-0039	(準耐火30分) 認定試験に必要 な要件を備えて おりますが、至 急公的機関で再 確認いたしま す。	QF030RS-0010 QF030RS-0025 QF030RS-0031 QF030RS-0037 QF030RS-0039 QF030RS-0042 QF030RS-0045 QF030RS-0066	平成13年10月10日 平成14年8月22日 平成14年10月25日 平成15年2月28日 平成15年2月28日 平成15年3月27日 平成15年9月3日 平成17年8月8日
乾式耐火間仕切 壁(けい酸カルシ ウム板+石膏ボ ード) (耐火60分)	ファイア ータイト 60S	平成 13年 2月 ～ 平成 19年 10月	約550件(※)	1時間耐火間仕 切壁の認定試験 の合格要件の一 つである裏面温 度の一部で基準 値を外れます。	FP060NP-0002	平成13年2月15日
乾式耐火間仕切 壁(けい酸カルシ ウム板+けい酸カル シウム板) (耐火60分)	ニチアス 耐火ウォ ール 60S	平成 13年 3月 ～ 平成 19年 10月	約200件(※)		FP060NP-0005	平成13年3月23日

※けい酸カルシウム板の納入実績から当該耐火間仕切壁として使用された可能性を推定した件数です。今後納入先各社様と精査し特定してまいります。

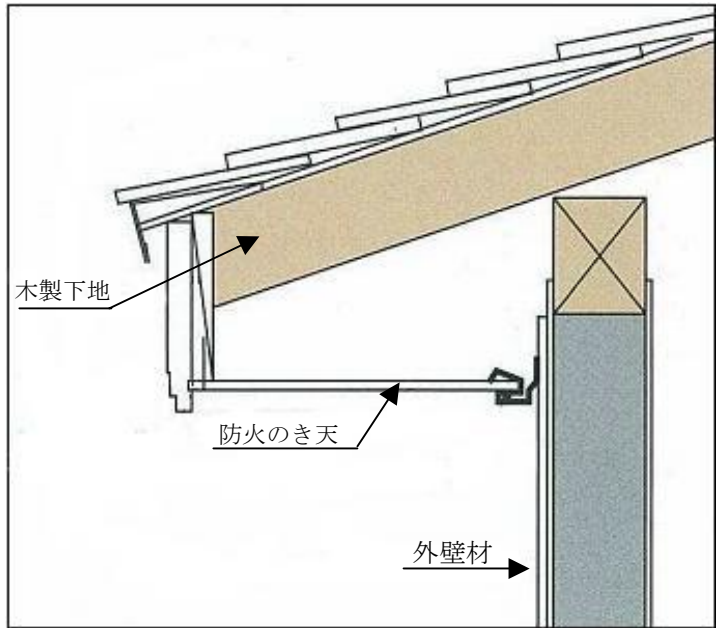
【添付資料】

製品説明

■住宅用軒裏天井材（製品名：防火のき天）



「防火のき天」施工例

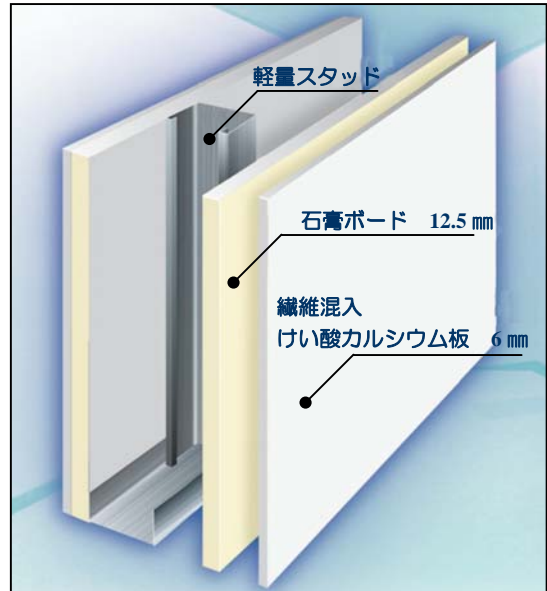


上図は当社の防火のき天を使用した一般的な軒先の断面図

■乾式耐火間仕切り壁（製品名：ファイアータイト60S、ニチアス耐火ウォール60S）



「ファイアータイト60S」施工例



上図は「ファイアータイト60S」の構造図

「耐火ウォール60S」は上図の石膏ボードを繊維混入けい酸カルシウム板8mmにしたもの。

(参考) 用語の解説

(1) 建築用語

用語		解説
耐火建築物	目的	屋内から火災が発生した時や、周囲で火災が発生した時に、火災が終了するまでの間、延焼をせず、建物が倒壊してしまうほどの変形や損傷などが起きないような建築物
	定義	主要構造部が耐火構造であるもの、あるいは主要構造部が屋内で発生が予測される火災、周囲において発生する通常の火災による火熱で火災が終了するまで耐える性能についての技術的基準に適合しているもので、どちらも外壁の開口部で延焼の恐れのある部分には遮炎性能を持つ防火設備を設けたもの。
耐火構造	目的	耐火建築物が火災によって倒壊及び延焼することを防止する為の構造
	定義	壁・柱・床などの建築物の部分が、通常の火災が終了するまでの間、火災によって建築物が倒壊および延焼することを防止する為の性能（非損傷性、遮熱性、遮炎性）をもった構造
準耐火建築物	目的	屋内から火災が発生した時や、周囲で火災が発生した時に、容易には延焼や倒壊をしないための建築物
	定義	主要構造部が準耐火構造であるもの（イ）、あるいはそれと同等の準耐火性能をもち、主要構造部の防火上の措置その他が技術的基準に適合しているもの（ロ）で、どちらも外壁の開口部で延焼のおそれのある部分に遮炎性能を持つ防火設備を設けたもの
準耐火構造	目的	壁・柱・床などの建築物の部分が、通常の火災による延焼を抑制するための構造
	定義	壁・柱・床などの建築物の部分が、通常の火災による延焼を抑制する為の性能（非損傷性、遮熱性、遮炎性）をもった構造

(出典：「よくわかる建築基準法」より)

(2) その他の用語

用語	説明
*1 軒裏天井（軒天）	屋根の軒先部分の裏側。
*2 耐火間仕切壁	耐火建築物の防火区画の間仕切壁。
*3 けい酸カルシウム板	けい酸質原料・石灰質原料と補強繊維を主成分として成型し、高温高压蒸気養生を行ったボード。
*4 試験体屋根部耐火被覆	軒裏の標準試験体として決まっている屋根部分の耐火被覆であり、繊維混入けい酸カルシウム板（厚さ 25 mm）を 2 枚重ねて貼ったもの。